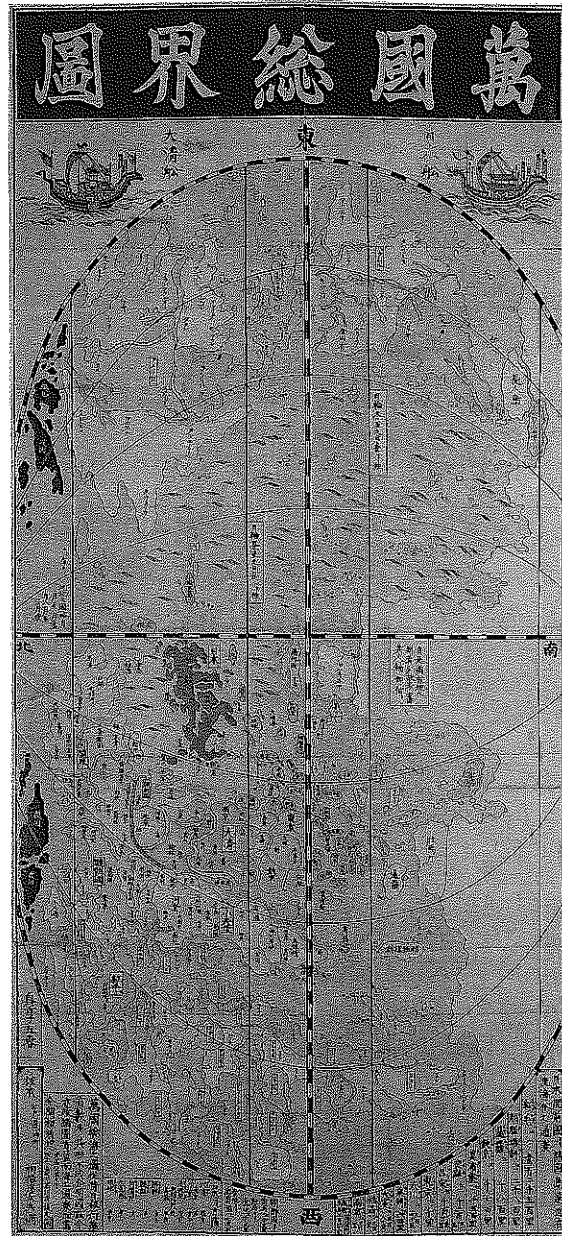


第46回 古地図企画展示

「鎖国」下の世界知識 ～刊行された世界図～

平成23年(2011)10月8日〔土〕～11月27日〔日〕
於 三階 特別展示室1

—— 出品目録 ——



No.5 万国総界図

江戸時代を語る上で、特質の一つとされる「鎖国」。しかし、完全に国が閉ざされていたわけではありません。江戸幕府は、西洋ではオランダ、アジアでは中国、朝鮮、琉球とは、何らかの形態をもって国交を維持していました。そして、これらの国々から様々な世界の情勢や地理知識が、直接そして間接的にもたらされたのです。

江戸時代に刊行された世界図として、もっとも古いのは正保2年(1645)の「万国総図」(下関市立長府博物館蔵)だとされています。この図の異版としては、万国総図(No1・No2)が確認されるほか、後には同名の小型図も作成されました。また、江戸時代中期の代表的な日本図として知られる「流宣日本図」を生み出した石川流宣も、貞享5年(1688)と宝永5年(1708)に同様の世界図(No5・No6)作成に携わっています。享保期以降は、八代将軍徳川吉宗の蘭書の一部解禁によって、蘭学の影響を受けた東西両半球図が作成され、19世紀初頭には幕府天文方の手によって、世界最高水準の世界図(No.25)が刊行されるまでに至りました。この一方で、日本に古くから伝わる三国世界観をもとにした仏教系世界図なども生み出されていました。江戸時代は、多種多様な世界図が見られた時代でもあったのです。

今回の展覧会では、当時の人々が目にしていた刊行世界図を中心に、各種地理書などを紹介することで、当時の世界知識の一端に迫ります。

No	資料名	作者等	時代	版種	寸法(cm)	備考
I. 卵形世界図の展開						
17世紀の中期以降、世界図の主流は東を図幅の上部に持つくる卵形の世界図＝「卵形世界図」(No.1～No.6)が、その主流として刊行されていましたが、18世紀にはマテオ・リッチ(利瑪竇)が作成した『坤輿万国全図』の影響を受けた世界図も世に出されます。						
1	万国総図・人物図		正保2年(1645)	万国総図 紙本筆彩 人形図 木版筆彩	133.9×56.1 135.8×59.2	池長
2	万国総図・人物図		正保丁酉年	万国総図 木版筆彩 人形図 木版筆彩	136.4×58.9 136.8×58.9	池長
3	万国総図・世界人形図		慶安5年(1652)	万国総図 木版筆彩 世界人形図 木版筆彩	65.5×40.8 65.3×41.3	池長
4	万国総図		江戸時代中期	木版筆彩	61.4×39.5	池長
5	万国総界図	石川流宣	貞享5年(1688)	木版筆彩	126.9×57.7	池長
6	万国総界図	石川流宣	宝永5年(1708)	木版筆彩	132.0×60.0	南波
7	世界万国地球図	稲垣光朗	宝永5年(1708)	木版筆彩	127.4×42.8	池長
8	輿地図	原目貞清	享保5年(1720)	木版	90.9×154.1	南波
9	世界三国記	長崎活濟堂板	江戸時代中期	木版筆彩	29.3×39.8	南波
10	万国図	木屋彦右衛門	延享元年(1744)	木版	52.8×71.8	南波
11	地球一覽図	三橋釣客	天明3年(1783)	木版筆彩	81.8×154.3	南波
12	坤輿全図	稲垣子戯	享和元年(1801)	木版刷彩	55.8×116.7	秋岡
13	坤輿全図説 完	稲垣子戯	享和2年(1802)	木版	25.5×17.9	秋岡

No	資料名	作者等	時代	版種	寸法(cm)	備考
14	地球万国山海輿地全図説	長久保赤水	18世紀末	木版筆彩	102.5 × 154.9	南波
15	地球万国山海輿地全図説	長久保赤水	天保15年(1844)	木版刷彩	33.2 × 89.0	南波
16	地球万国輿地全図説	長久保赤水	嘉永3年(1850)	木版刷彩	48.8 × 68.7	南波

Ⅱ. 蘭学系世界図

18世紀末から19世紀にかけて、西洋からの学問(中心は蘭学)を享受することにより、それまでの世界図とは異なる東西両半球図を図幅に描く世界図がその主流を占めるようになります。世界知識の受け入れという点では、ペリー来航を期せずして、すでに「開国」していたようです。

17	地球図	司馬江漢	寛政4年(1792)	東半球図 西半球図	銅版筆彩 銅版筆彩	55.0 × 45.1 55.0 × 44.9	池長
18	コーフェンス・モルティール世界図	P.モルティール	1720年		銅版筆彩	61.0 × 100.4	
19	万国地球全図 全	桂川甫周	寛政4年(1792)頃		木版筆彩	80.2 × 92.8	秋岡
20	嶋蘭新訳地球全図	橋本宗吉	寛政8年(1796)		木版筆彩	55.5 × 92.9	南波
21	嶋蘭新訳地球全図(題簽)	橋本宗吉	寛政8年(1796)		木版筆彩	55.5 × 93.6	南波
22	万国一覽図	古屋野意春	文化6年(1809)		木版	105.4 × 139.9	南波
23	万国一覽図説 乾・坤	古屋野意春	文化7年(1810)		木版筆刷	25.6 × 18.0	池長
24	円球万国地海全図	石塚崔高	享和2年(1802)		木版筆彩	118.6 × 219.2	秋岡
25	新訂万国全図	高橋景保	文化7年(1810)		銅版筆彩	114.8 × 197.7	南波
26	地球万国全図	玄々堂松本儀平	天保7年(1836)		銅版	16.6 × 29.8	秋岡
27	新製輿地全図	箕作省吾	弘化元年(1844)		木版筆彩	35.5 × 119.5	秋岡
28	新訂地球万国方図	水堂彭	嘉永5年(1852)		木版刷彩	100.3 × 178.8	南波
29	掌中万国図	工藤東平	嘉永6年(1853)		木版刷彩	32.5 × 51.2	南波

Ⅲ. 仏教系世界図の展開

インドと中国と日本から世界が成り立っている、というのが仏教の世界観ですが、それは世界図にも反映され、独自の地図を生み出しました。が、西洋の情報も少なからず取り込まれています。

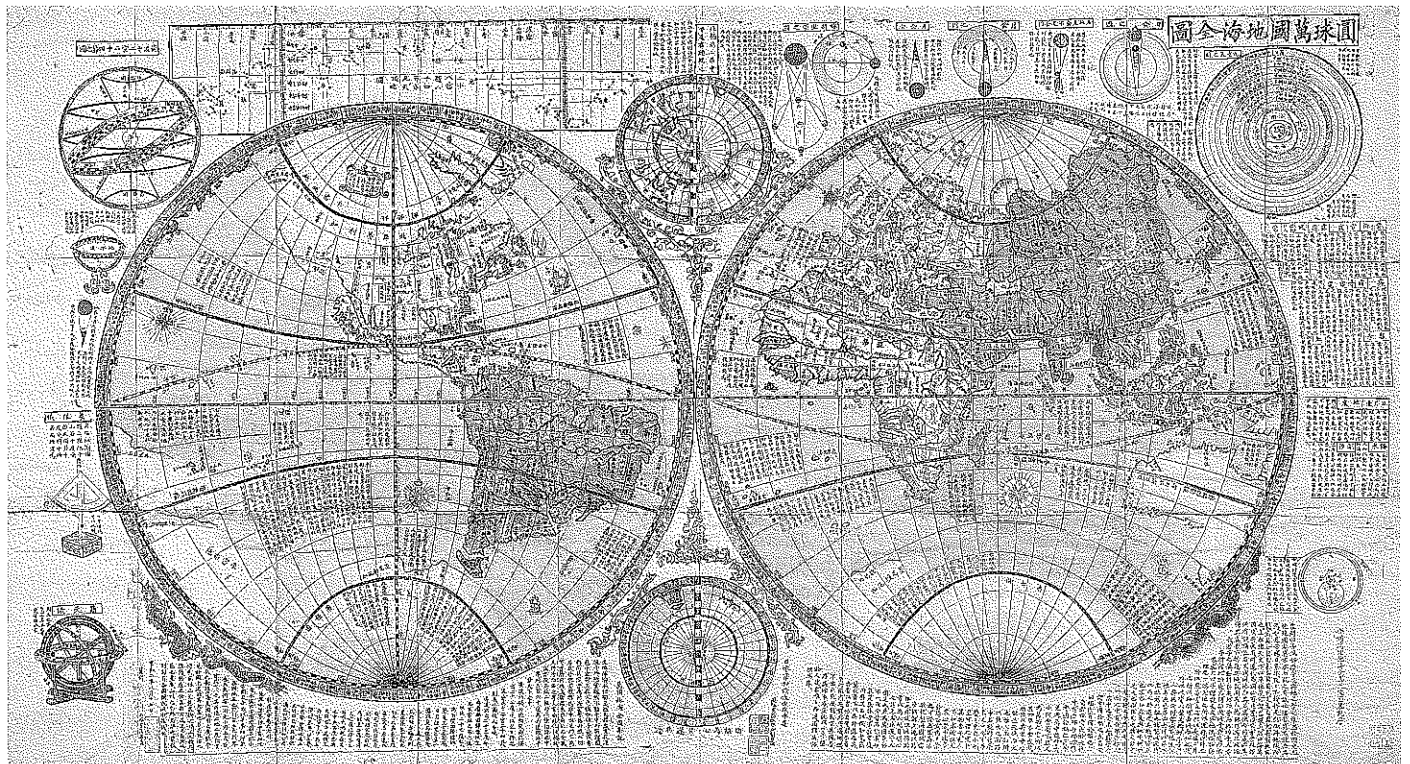
30	南瞻部洲万国掌葉之図	浪華子	宝永7年(1710)		木版筆彩	117.4 × 144.0	秋岡
31	南閩浮提諸国集覽之図	花坊兵蔵	延享元年(1744)		木版	50.1 × 69.7	秋岡
32	南閩浮提諸国集覽之図	花坊兵蔵	江戸時代後期		木版筆彩	64.4 × 90.5	南波
33	閩浮提図附日宮図	存統	文化5年(1808)		木版筆彩	129.4 × 56.0	池長
34	世界大相図	存統	文政4年(1821)		木版筆彩	130.0 × 55.2	池長
35	天竺輿地図	存統	文政11年(1828)		木版筆彩	129.7 × 54.9	池長

Ⅳ. 地理書にみる世界

世界図が日本と世界との位置関係を視覚的に把握することが中心であったのに対し、各種地理書には世界各地の産物や風俗などが記されており、多くの人々の世界知識の源泉となったでしょう。

36	古今地理学問答	J.ヒュブネル	1736(蘭訳第5版)		銅版	20.8 × 13.5	
37	華夷通商考	西川如見	元禄8年(1695)		木版	14.2 × 22.5	池長
38	増補華夷通商考	西川如見	宝永6年(1709)		木版	22.5 × 15.8	池長
39	采覧異言	新井白石	正徳3年(1713)		写本	24.1 × 17.1	秋岡
40	訂正増譯采覧異言	山村昌永	享和2年(1802)		写本	26.8 × 18.1	秋岡

No	資料名	作者等	時代	版種	寸法(cm)	備考
41	紅毛雑話	森島中良	天明7年(1787)	木版	21.6 × 15.4	秋岡
42	泰西輿地図説	朽木昌綱	寛政元年(1789)	木版	22.9 × 16.0	池長
43	万国新話	森島中良	寛政12年(1800)	木版	22.5 × 15.4	秋岡
44	和蘭通船	司馬江漢	文化2年(1805)	木版	22.9 × 15.6	池長
45	坤輿図識	箕作省吾	弘化2年(1845)	木版	26.2 × 18.2	秋岡
46	坤輿図識補	箕作省吾	弘化4年(1847)	木版	26.2 × 18.2	秋岡
47	海外新話	嶺田楓江	嘉永2年(1849)	木版	26.0 × 17.9	池長
48	地学正宗	杉田玄瑞	嘉永4年(1851)	木版	26.0 × 18.2	秋岡
49	八紘通誌	箕作阮甫	嘉永4年(1851) ～安政3年(1856)	木版	26.4 × 23.3	秋岡
50	海国図志 籌海篇	塩谷甲蔵 ・箕作阮甫	嘉永7年(1854)	木版	26.4 × 18.4	秋岡



No.24 円球万国地海全図

*備考欄の、池長は池長孟、南波は南波松太郎、秋岡は秋岡武次郎のコレクションを指す。

◆次回展のお知らせ◆

特別展「日本絵画の秘密」

平成23年12月10日(土)～1月22日(日)

ギャラリー「日本画家・西田真人が描いた阪神大震災」

平成23年12月10日(土)～2月19日(日)